

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス ほっぷ国府台		公表日		令和8年 2月 28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	4	ワンフロアーの為、多目的ルームと勉強部屋をパテーションによって分けられている。遊び声は気になる時はある。更衣室の確保。限られたスペースの中で工夫しているが工夫にも制限がある。	事業所のスペースについて手狭に感じられるのご意見を真摯に受け止め、限られた空間の中でもより安全で活動しやすい環境づくりに努めてまいります。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	利用定員数や児童の特性を踏まえ、活動内容に応じて職員配置を調整し、見守りと個別支援の両立を図っている改善点、突発的な不調や支援度の高い児童への対応に備え、加配職員や応援体制を強化する必要がある。その日の状況や児童の様子により厳しと感じる場面がある。	職員配置についてご不安を感じさせている点を重く受け止め、より安心してご利用いただける体制づくりを進めてまいります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切にされているか。	5	2	活動ごとに空間を区切り、視覚的に示すことで、子どもが見通しを持って安心して行動できる環境を整えている出入口扉が重く、風の影響により勢いよく閉まってしまったり等、児童の出入りにやや危険を感じる事がある。聴覚過敏の児童の為に、学習スペースと遊びのスペースを、パテーションで区切って工夫している	既存の建物を活用している中で十分とは言えない部分があるのご意見を真摯に受け止め、より分かりやすく安心してできる環境整備に努めてまいります。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	2	日々の掃除、消毒を徹底している。利用人数によって活動内容や室内活動の利用人数に制限を感じる。クールダウンや体調不良等のスペースがなく簡易的な敷居をし隔離なスペースとなり、使用したい児童にとって適切であるのか疑問に感じる事がある。	生活空間の清潔さや快適さについて十分にご満足いただけていない点を真摯に受け止め、より安心して過ごせる環境づくりに努めてまいります。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	4	部屋数がなくクールダウンをする部屋の確保が必要。学習室と活動フロアを仕切りで区別している。児童の状態によっては、マットやテントで1人の空間を作っている。	効果的な仕切り方法を職員間で検討し、個々のニーズに応じた環境設定を実施いたします。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1		日々の支援で得られた細かな気づきを計画に反映させるため、職員の意見交換を強化し、保護者様の意向をより具体的に反映した計画書を作成します。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1		さらに職員の意見交換を強化していきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3		本部和相談しながら検討していきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	7		毎月研修を行なっている		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		課題、支援計画に沿った評価を元に、必要と感じられる支援目標が計画されている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		日々児童と関わる中で見られる課題に対する支援目標が関わっている職員の意見も反映した上で計画されている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1		さらに職員間と共有できる場を設けていきます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7				

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	2	意見、希望を出す場はあるものの、基本的にはその日の担当職員が活動プログラムを計画している。	非常勤職員からの意見も取り入れながらプログラムを作成していきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		児童の課題、支援計画に沿った活動内容やその日の体調、希望を状況に応じて課題と向き合う活動やみんなと楽しむ、コミュニケーション獲得等、目的設定した上で支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	毎日、ミーティングを行い振り返り役割分担を決めている。改善点は都度行っている。	非常勤にもより分かりやすい内容で共有していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	その日ではなく、次の日にミーティングを開き支援の振り返りや児童の様子を報告し、職員間で共有している。	終了時間と退社時間により当日の振り返りが難しいことから翌日には共有できるよう今後も務めていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	児童対応を優先するあまり、日々の支援記録（日報記入）が後回しになり溜まってしまふ事がある。利用記録や日報を記入する時間に、利用者の清掃時間が重なり、利用者への支援や配慮が充分出来ず、日報も書けないので、改善して欲しい。”	勤務時間の見直しを検討をしていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	2	活動内容を複数用意し、児童がやりたい、やってみたいと意見が言えるようにしている。ある程度の希望は傾聴しつつ、好き放題やりたい放題にならない促しや子どもが主導権を握らないような対応、工夫は必要と感じられる。自己決定をする力を無くしている場面が時々ある。	研修を取り入れ質の向上に努めていきます。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		体制状況の把握を職員間で共有していきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1	学校や担任の先生による個性が感じられ、まめにその日の学校での様子を報告してくれる先生もいる。トラブルがあった際の申し送りがなく、不安定や不機嫌で来所する事のある児童が時々見られ、適切である判断は難しい。	職員間でさらに必要性の理解を深めていきます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2	分からない	情報共有している情報を非常勤職員にも把握できる場を設けていきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2	相談支援員と相談し必要な場合、支援内容の提供をしている。 分からない	情報共有している情報を非常勤職員にも把握できる場を設けていきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	2		情報共有している情報を非常勤職員にも把握できる場を設けていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	5	計画はしていないが、公園やイベントであった際は交流をしている	保護者によっては地域交流を否定している為、慎重に機械を設けられるよう検討していきます。

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2		常勤職員は参加出来ているが非常勤職員の参加は今後、意志を確認しながら検討をしていきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7			帰りの送迎時に、家族へ様子を伝えて いる。また、家での様子を聞き職員間 で共有している。家族が話しやすいよ うな聞き方や話し方を工夫している。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4		研修を取り入れ質の向上に努めていき ます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	1	6		交流の場を設けられるよう検討してい きます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	3		さらにこまめに情報を伝えられるよう 発信していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6		交流の場を設けられるよう検討してい きます。
非常時等の対	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			家族より聞き取りをし、好き嫌いやアレル ギーの有無を確認している。また、グレー ゾーン(アレルギーと診断は出ていない が、児童からの訴え)の場合は、安全のた めに提供をしないようにしている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			

こ の 応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	ミーティングにて周知、防止策を検討している。 共有、対策は講じているものの、状況や児童の様子、特性により、対策、再発防止の難しいものもある。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		